

事務事業評価シート(平成22年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課		課長名		記入者		
		教育総務 課		原 寛		山下 新吾		
事務事業名		新規・継続		事業開始年度		完了予定年度		
那珂ふれあい館運営事業		新規 ☐ 継続		年度 ☐ H20以前		年度 ☐ 未定		
事務事業の体系								
計画 掲載	多可町総合計画		(章) 2 笑顔でつむあったかいまち		(節) 2 学ぼう、活かそう			
	個別計画		(基本計画) 生涯学習を推進する					
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)						
多可町ビジターセンター条例		☐ ソフト事業		施設の維持管理				
		義務的事業		内部管理事務				
事務事業の具体的内容		建設・整備事業		計画などの策定				
地域の歴史学習の拠点施設として勾玉作りや土器作り、ぞうり作りなど伝統文化にも触れる体験学習を行っている。又、住民のニーズにも合った内容も盛り込み、教える側の技術を生かせる場でもあり学ぶ側もいきいき学べ、ともに交流の場を通し人づくり・まち作りにつながる学習機会の提供を行っている。		補助金の支給		有 ☐ 無				
		委託	全部委託		一部委託			
			☐ 委託なし(全部直営)					

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
職員・住民	住民	施設の周知を図り、生涯学習成果の活用場とする

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名		一般 会計	
細目名	那珂ふれあい館運営事業	細目名		細目名			
予算 コード	款 10 項 5 目 4 大 1	予算 コード	款 項 目 大 事 業	予算 コード	款 項 目 大 事 業		

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23年度 計画	備 考 (全体事業費など)
総 コ ス ト			16,108	15,479	16,092	
コスト の内訳	直接事業費	千円	3,768	3,231	3,837	
	所属内間接費		2,542	2,450	2,457	
	人件費		9,798	9,798	9,798	
	投入人員	人/年	1.21	1.21	1.21	
財源 内訳	国・県支出金	千円				【特定財源内訳】 使用料・受講料・材料代
	地方債					
	その他特定財源		486	286	390	
	一般財源		15,622	15,193	15,702	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 見込	23年度 目標
1	イベントサポーターの育成	広報・かみTV・HPで周知募集する	イベントサポーターの登録数	人	4	4	4
2	イベント企画調整事務		イベント実施回数	回	233	219	220
3	人材の発掘		年間集客数	人	15,114	13,154	15,000
4	多可ふれあいボランティア アガイト運営事務		多可ふれあいボランティア アガイト登録数	人	33	33	33
5	企画調整会議事務	定期的な会議を行う	運営会議回数	回	1	1	1

(ソフト事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [那珂ふれあい館運営事業]			
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度実績	22年度実績(見込)	23 年度目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
自主イベント実施回数	回	233	219	220	施設の周知を図り、交流施設としての役割を果たし、生涯学習成果の活用場とする
年間集客数	人	15,114	13,154	15,000	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)				
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない	把握なし	住民のニーズには十分こたえきれてはいない。どんな物が求められているのかをもっと情報収集いけない。民間でも似たような教室があるが高料金である		
		緊急性は	高い	○ 高くない				
		利用者・対象者数は	増加	○ 減少	横ばい			
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	○ ない	ある	把握なし			
	町の関与の 必要性	民間の事業(サービス)との競合は	ない	○ ある				
		国や県の事業(サービス)との重複は	ない	○ ある				
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○ ない	ある		緑に囲まれた良好な環境の中で体験が出来、しかも低料金である。こども対象の事業の中で同類事業については子ども課・公民館と調整し行うこととした。		
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	ない	○ ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○ ない	ある	把握なし			
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	ない	○ ある				
		他の事業と統合できる可能性は	ない	○ ある	あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	ない	○ ある	あるが困難			
	市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	ない	○ ある	あるが困難				
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	ない	○ ある		講師のあるイベントについては負担のない金額を参加者から徴収し講師料に充当するすることとした(100円)		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	ない	○ ある				
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	ない	○ ある				
		受益者負担を見直す余地は	ない	○ ある				
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	ある	○ ない		親子で参加されるイベントが多いが、イベントを通して一つの物作りを完成させる喜びを親子が共通してもてる場として有効な事業として認識している		
		前年より成果が上がって	○ いる	いない	横ばい			
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない				
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	いない	測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない				
市場化の 可能性	既に全部委託済	更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	○ 委託化は不可能			
	市場化テストの導入について検討する余地がある		市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性			1.改善の余地はない		○ 2.改善の余地がややある			
			3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要			

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 那珂ふれあい館運営事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) 体験イベントの講師・サポーター不足の解消を図るため、たかTVとも連携する。 町内小学校への利用推進に努める。									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 那珂ふれあい館の利用者増を目指し、他の施設や団体などとの共催イベントを開催するなど、自主イベントの内容の充実を図り、貸館事業や国・県レベルのイベントの誘致にも力を入れたい。 また、この館は住民ボランティアで支えられている面が多くあるので、より活動のしやすい環境づくりに取り組みたい。									
所管評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) イベント内容の充実を図るとともにPRに努め、町内外からの集客数を増やす取り組みをすすめていく。									
事業評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了			
評価委員コメント									
町内小学校への利用推進について具体的に進めてほしい。									